

# KaracrixBuilderV3 システムマニュアル

## 21章 記録ファイル環境設定

(章別取扱説明書 v1.00)

株式会社 エスアイ創房

# KaracrixBuilder

---

改定履歴

第 1.00 版 2008/12/1

おことわり

- (1) 本書内容の一部又は全部を、無断で他に転載することは禁止されています。
- (2) 本書内容は、将来予告無く変更する場合があります。

KARACRIX は株式会社エスアイ創房の登録商標です。

KaracrixBuilderV3 システムマニュアル 第 1.00 版 © S.I.Soubou Inc.

## 目次

21 章	記録ファイル環境設定	21-1
21.1	記録ファイル環境メニュー	21-1
21.2	計測データ記録条件設定	21-2
21.2.1	記録ファイル作成の流れ	21-2
21.2.2	記録ファイルを使用して動作するモジュール	21-3
21.2.3	記録ファイル(sys_itvYYMM.log)の仕様	21-3
21.2.4	計測データ記録条件設定	21-4
21.3	計測 CSV 変換	21-7
21.4	計測記録データ編集	21-13
21.5	ファイル一覧&削除	21-18



## 21章 記録ファイル環境設定

KaracrixBuilder の記録ファイルには、定期的にポイントの状態値を保存する記録ファイルと、イベント発生時に生成される操作や警報履歴を保存する記録ファイルがあります。本章では状態値を定期記録する記録ファイルに関する解説を主に行いません。

### 21.1 記録ファイル環境メニュー

「メインメニュー」画面から“システム設定”ボタンを押して「システム環境設定メニュー」画面を表示します。本章では、「C. 記録ファイル環境」について解説します。

「A. システム一般環境」については、「19 章 システム一般環境設定」、「B. オブジェクト環境」については、「20 章 オブジェクト環境設定」で解説していますので、そちらを参照して下さい。

記録ファイル環境設定に必要な各種機能のボタンが以下のように C グループに表示されます。



図 21.1.1 システム環境設定メニュー画面

### C. 記録ファイル環境

#### 9. 計測記録設定

計測記録を行うポイントと記録時間を設定します。

本設定は、記録トレンドグラフや帳票のデータに用いられます。(後述 21.2.2 を参照)

#### 10. 計測 CSV 変換

計測記録データを CSV フォーマットでテキストファイルに出力します。

#### 11. 計測記録データ編集

記録済のデータの修正や削除を行います。新規にデータ追加も可能です。

#### 12. ファイル一覧&削除

KaracrixBuilder が管理しているディレクトリ、ファイル一覧の参照、および削除を行います。

21.2 計測データ記録条件設定

記録ファイルの記録条件設定を説明する前に、記録の仕組みについて解説します。

21.2.1 記録ファイル作成の流れ

各種センサからの計測データをポイントオブジェクト(共有メモリ)を経由して記録ファイルとして作成されるまでのプロセスを以下で説明します。

センサからの入力をI/O装置が取り込みます。

通信制御アプリケーションプログラムがI/O装置にアクセスしてセンサ入力値を読み込んでシステム内(KaracrixBuilder)のポイントオブジェクト共有メモリに書き込みます。

システム内のデータ記録器機能がポイントオブジェクト共有メモリから入力値を読み込んでいます。

この時、読み込むポイント名、読み込み間隔などの指定を「計測データ記録条件設定」画面で行いません。

データ記録器機能は、読み込んだ入力値をシステムのテープメモリ(sys\_itvYYMM.log ファイル)に書き込んでいきます。テープメモリは、下図のイメージのように記録データが順次保存されて記録されるペンレコーダのようなものです。計測データは記録ファイルとして保存されていきます。

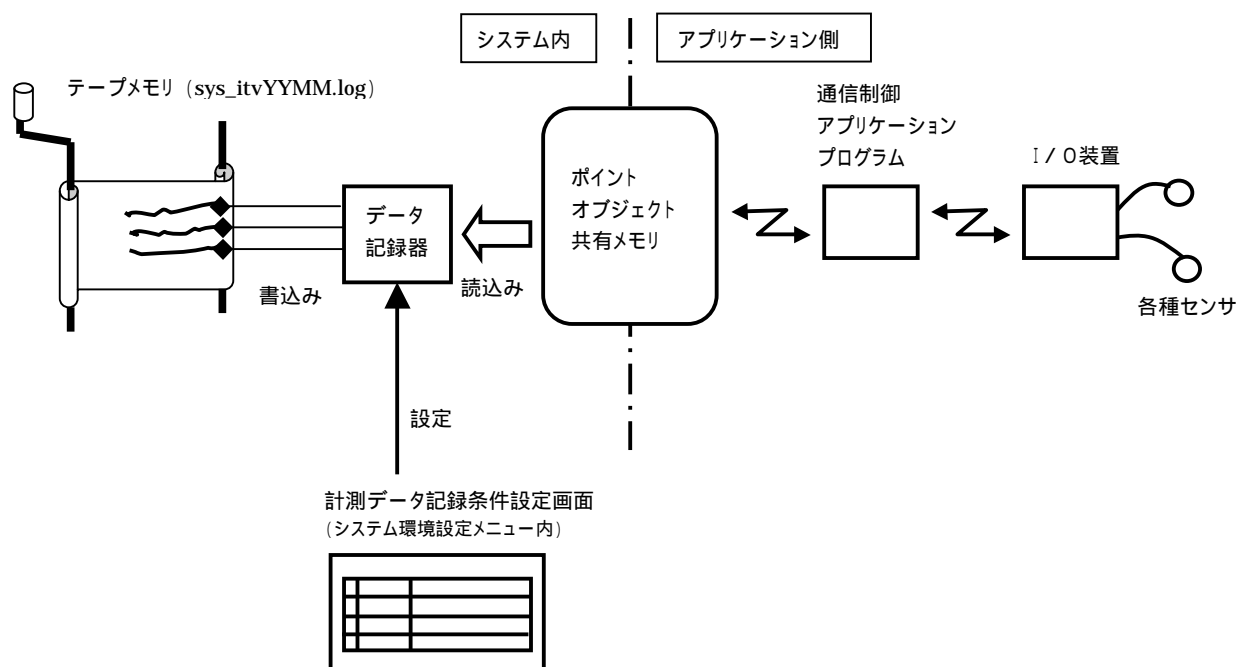


図 21.2.1 記録ファイル作成プロセスの概要

KaracrixBuilder の計測記録機能は、他のプロセスに影響されることなく設定に従って独立して動作します。記録するデータは、記録時のポイントオブジェクト共有メモリの状態値ですが、共有メモリのリフレッシュの有無に係わらず記録 (sys\_itvYYMM.log ファイル) するようになっています。よって、計測記録は計測アプリケーションプログラムが実行されていても、いなくても設定された記録時間(タイミング)毎に記録します。

例えば、通信制御アプリケーションプログラムを実行するとリモート I/O と通信して取得した I/O の状態を共有メモリに書き込みます。つまり、ポイントオブジェクト共有メモリをリフレッシュするということになります。この時の計測記録は、リモート I/O のリアルタイムの状態(ポイントオブジェクトメモリがリフレッシュされた時点の)を記録していることとなります。従って、通信制御アプリケーションプログラムが走っていない場合の計測記録は、メモリに残っている古いもの(ポイントオブジェクト共有メモリが最後にリフレッシュされた時点の状態と警報ステータス(状態))を記録し続けることとなりますので注意してください。

記録するポイントの設定は、そのポイントの計測状況(リフレッシュの有無)に関係なく設定でき、設定された条件に従って記録を行います。

計測記録の設定は、記録するポイント(複数指定可)と記録時間(タイミング)と許可(実行 ON/OFF)を与えることにより行います。

## 21.2.2 記録ファイルを使用して動作するモジュール

計測データ記録機能による記録データを参照する KaracrixBuilder の関連する機能を以下に示します。

記録トレンドグラフ (コンソール画面表示、Web 画面表示)

表示グラフのデータに使用します。

帳票プログラム (コンソール印刷、Web 画面による PDF ダウンロード)

日月報書類の作成データに使用します。

記録 CSV 変換出力 (コンソールのディレクトリ出力、Web 画面によるダウンロード)

記録データをテキストデータにして外部出力します。

計測記録データ編集 (コンソール画面)

記録データ値を編集します。

ファイル一覧 & 削除 (コンソール画面)

月単位で記録データを削除します。

## 21.2.3 記録ファイル(sys\_itvYYMM.log)の仕様

付録 F のインターバルログファイルのフォーマットを参照ください。

また、関連する KCX ライブラリ関数を以下に示します。

kcxobj\_itv\_log\_uwt 関数 (計測記録データを追加作成する)

kcxobj\_log\_perm\_ird 関数 (オブジェクトの計測記録許可を得る)

kcxobj\_log\_perm\_iwt 関数 (オブジェクトの計測記録許可を設定する)

## 21.2 計測データ記録条件設定

### 21.2.4 計測データ記録条件設定

「システム環境設定メニュー」画面で、「計測記録設定」ボタンを押すと「計測データ記録条件設定」画面が表示されます。

No.	OBJID	ポイント名	種別	記録時間間隔	実行
1	ai001	N-ai001	AI	1分毎	OFF
2	ai002	N-ai002	AI	10分毎	OFF
3	ai003	N-ai003	AI	30分毎	OFF
4	ai004	N-ai004	AI	1時間毎	OFF
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					

図 21.2.2 計測データ記録条件設定画面

計測データ記録条件設定画面では、計測記録を行うポイントオブジェクトを登録します。サンプルとしてデフォルトでポイントオブジェクト ai001、ai002、ai003、ai004 が登録されています。計測データ記録条件設定画面の項目を以下で説明します。

No

登録番号を示します。

OBJID、ポイント名、種別

ポイント登録で定義されているポイントオブジェクトを設定します。項目をクリックすると下図のように「ポイント選択」ダイアログが表示されますので、計測記録を行うポイントを選択します。「ポイント選択」ダイアログの上段では、下段に表示されるポイント種別の絞込みを行なうことができます。下段のポイント一覧から設定したいポイントオブジェクトの行をクリックして下さい。

この項目は、システムパラメータ設定(19章19.2.7)の「オブジェクト識別表示」の設定に依存しており、OBJID表示にしている場合に「OBJID」が表示されます。TAG名の表示を選択している場合には「タグ名」が表示されます。





図 21.2.3 ポイント選択ダイアログ

## 記録時間間隔

データの記録インターバル時間を設定します。

ポイントオブジェクトを設定するとデフォルトで“1時間毎”が設定されますので、変更する場合は“記録時間間隔”の項目をクリックして「データ選択」ダイアログから選択します。



図 21.2.4 データ選択ダイアログ

(データ欄の選択項目の解説)

データを記録するインターバル間隔時間です。

? 分毎: 0時0分を基準にして、?分間隔に記録します。

? 時間毎: 0時0分を基準にして、?時間間隔に記録します。

\* 59 分時: 1時間間隔で、毎時 59 分に記録します。

## 21.2 計測データ記録条件設定

### 実行

記録の実行を許可をします。(本項で ON にしないと記録されませんので注意して下さい。)

#### 実行許可 ON 時の PAUSE 表示について

記録実行を許可にしておいても制御プログラム等によって記録を動的に一時停止させられる場合があります。その場合は、以下のように“PAUSE”が表示されます。

No.	OBJID	ポイント名	種別	記録時間間隔	実行
1	ai001	N-ai001	AI	1分毎	PAUSE

図 21.2.5 実行許可の一時停止表示

例えば、データ計測状態が良好でない場合等に記録を一時的に停止する場合などです。制御プログラム等が以下のライブラリ関数を使って制御しています。

kcxobj\_log\_perm\_iwt( objid, 1 );      許可

kcxobj\_log\_perm\_iwt( objid, 0 );      停止

この機能を使用して“PAUSE”にした場合、コンソールからは再度“ON”にすることはできませんのでご注意下さい。“PAUSE”を解除するには、上記の関数を使用して許可にする必要があります。

#### \*ON ボタン

登録した全ポイントを対象にして、記録実行を ON にします。

#### \*OFF ボタン

登録した全ポイントを対象にして、記録実行を OFF にします。

## 21.3 計測 CSV 変換

計測 CSV 変換機能は、計測記録データから、複数のポイントデータをまとめて CSV フォーマットのテキストファイルに変換して取得する機能を提供します。

本画面の設定は、Webブラウザ画面からも参照して出力条件の設定を行うことができます。設定データは、本画面及びブラウザ画面の操作間で排他的アクセス保護がされておきませんので書き込みタイミングに注意が必要です。書き込みは後優先となります。

「システム環境設定メニュー」画面で、「計測 CSV 変換」ボタンを押して「記録データ CSV 変換」画面を表示して下さい。

No.	グループ名	ポイント / ファイル出力	M3
1	アナロググループ-A	ai001, ai002, ai003, ai004, ...	*
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

図 21.3.1 記録データ CSV 変換画面

本画面では、まとめて CSV 出力する複数のポイントをグループとして登録して使用します。

サンプルとしてデフォルトでアナロググループ-A というグループ名で、ポイントオブジェクト ai001、ai002、ai003、ai004 が登録されています。

計測 CSV 変換画面の項目を以下で説明します。

## 21.3 計測 CSV 変換

No

登録番号を示します。

グループ名

計測記録データを一括して抽出して CSV 出力するグループ名を設定します。

ポイント/ファイル出力

CSV 変換処理を行います。クリックすると「記録 CSV 変換出力設定」画面が表示されます。

項目欄には、「記録 CSV 変換出力設定」画面の No1.から No.5 に設定したポイント ID あるいはタグ名を代表して表示します。

W3(WWW)

登録されているグループを Web ブラウザ (W3) から参照及び設定を許可するかどうかの設定を行います。本欄をマウスで選択してクリックすると設定ダイアログが表示されます。

設定には、以下の3つがあります。

新規登録したグループの W3 のデフォルトは“-”になっています。



- : 非公開 (Web または携帯端末から参照及び設定できません)
- \* : 一般ユーザ、管理者ユーザからの参照及び設定を許可します
- S : 管理者ユーザからの参照及び設定を許可します
- CAN : 設定をキャンセルします

図 21.3.2 アクセス許可設定ダイアログ

+W3、-W3

登録されている計測データ CSV 変換画面の一括設定ボタンです。

“+W3”ボタンをチェックすると、W3 の設定を一括して全て許可(\*)に設定します。

“-W3”ボタンをチェックすると、W3 の設定を一括して全て非公開(-)に設定します。

## 記録 CSV 変換出力設定画面

「記録データ CSV 変換」画面の“ポイント/ファイル出力”欄を選択して「記録 CSV 変換出力設定」画面を表示してください。

記録ファイル(バイナリーデータ)からカンマ区切りの ASCII ファイル(CSV)に変換します。

以下の設定項目を設定して、“OUTPUT”ボタンをクリックすると CSV ファイルを出力します。

記録CSV変換出力設定 1) アナロググループ-A

変換出力開始時刻: 2008 / 2 / 29 14 : 25

変換出力終了時刻: 2008 / 3 / 1 14 : 25

出力ディレクトリパス名: /tmp

出力ファイル名: log\_20080301\_142538.txt

出力制限行数: 500

出力デリミタ: CR LF CR LF

出力漢字コード: SJIS EUC UTF8

実行メッセージ

変換実行 OUTPUT

No.	OBJID	ポイント名	種別	出力フォーマット	登録
1	ai001	N-ai001	AI	%8.2f	ON
2	ai002	N-ai002	AI	%8.2f	ON
3	ai003	N-ai003	AI	%8.2f	ON
4	ai004	N-ai004	AI	%8.2f	ON
5					
6					
7					
8					

図 21.3.3 記録 CSV 変換出力設定画面

「記録 CSV 変換出力設定」画面の項目を以下で説明します。

### 変換出力開始時刻

記録データを検索して CSV 変換する開始時刻を設定します。

### 変換出力終了時刻

記録データを検索して CSV 変換する終了時刻を設定します。

### 出力ディレクトリパス名

CSV ファイルを出力するディレクトリを設定します。デフォルトでは“/tmp”に出力します。

Web ブラウザ画面からアクセスした場合は無効

### 出力ファイル名

生成する CSV ファイル名を設定します。

下記フォーマットによるファイル名がデフォルトとして設定されます。

csv_YYYYMMDD_hhmmss.dat	
YYYY	: 西暦年 (year)
MM	: 月 (month)
DD	: 日 (day)
hh	: 時 (hour)
mm	: 分 (minute)
ss	: 秒 (sec)

Web ブラウザ画面からアクセスした場合は無効

### 実行メッセージ

CSV 変換作業の実行結果を表示します。

### 出力制限行数

出力する CSV ファイルの最大行数を制限します。

Web ブラウザ画面からも設定可 (競合注意)

### 出力デリミタボタン

出力デリミタ(改行コード)を指定します。

Web ブラウザ画面からも設定可 (競合注意)

### 出力漢字コードボタン

ポイント名称などに漢字を使用した場合、出力する漢字コードを指定します。

Web ブラウザ画面からも設定可 (競合注意)

#### 各 OS のデリミタと漢字コードの対応例

OS環境	デリミタ	漢字コード
Windows	CR+LF	UTF8、SJIS
Macintosh	CR	UTF8、SJIS
Linux/UNIX 系	LF	UTF8、EUC

### 変換実行ボタン (OUTPUT)

CSV 変換を実行して CSV ファイルを出力します。

以下の設定項目で、計測記録されているポイントオブジェクトを選択します。

未登録の行で、OBJID、ポイント名、種別の項目をクリックすると「オブジェクト選択」ダイアログが表示されますので CSV 出力したいポイントを選択します。

No.

登録番号です。

OBJID or タグ名

ポイントの ID またはタグ名です。

ポイント名

ポイントの名称を表示します。

種別

ポイントの型を表示します。

DI : 接点入力

DO : 接点出力

PI : 積算入力

AI : アナログ入力

AO : アナログ出力

### 出力フォーマット

データを変換する書式を設定します。(バイナリ数値データを数値文字に変換)

ポイントを登録すると、デフォルト値として以下の書式が設定されます。

- A. 整数型ポイント(DI,DO)の場合 : %d
- B. 整数型ポイント(PI)の場合 : %6d
- C. 実数型ポイント(AI,AO)の場合 : %8.2f

変更したい場合には、項目をクリックして下さい。「文字入力」ダイアログが表示されますので編集を行うことができます。

以下に表示例を示します。詳しくは、C 言語解説書の printf 文フォーマット変換を参照して下さい。

例)

#### A. 整数型ポイント(DI, DO, PI)の場合

値が 123 の時

%d "123"

%5d " 123"

%05d "00123"

#### B. 実数型ポイント(AI, AO)の場合

値が 3.14 の時

%f 環境依存(実行する OS、コンパイラの仕様による)

%5.1f " 3.1"

%5.2f " 3.14"

%5.3f "3.140"

%05.2f "03.14"

### 登録

ポイントを CSV 変換の対象として登録する場合には“ON”にします。



## 21.4 計測記録データ編集

計測記録データ編集では、記録済みの記録ファイル(sys\_itvYYMM.log)の計測データ内容を編集します。計測データの変更、レコードの削除(無効化)、新規レコードの追加等を行うことができます。

「システム環境設定メニュー」画面で、「計測記録データ編集」ボタンを押すと「計測記録データファイル編集」画面が表示されます。



図 21.4.1 計測記録データファイル編集画面

計測記録データファイル編集画面の項目を以下で説明します。

### 編集時間(年月日)

編集日を設定します。指定できる日付は、昨日までのデータが対象となります。本日以降(未来)は編集対象外となりますが、指定した場合は以下のようにメッセージが表示され、読み込みモードで表示のみ行います。

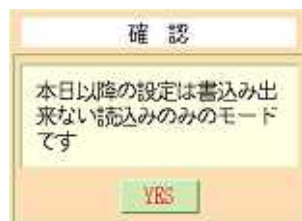


図 21.4.2 読み込みモードのメッセージ

## 21.4 計測記録データ編集

### ファイル読みボタン (READ)

指定した日付のデータを読み込みます。指定した日付のデータファイルの有無にかかわらず、“ファイル読み”ボタンを押さないと編集作業を行うことができません。

ファイル読みが成功すると以下のように画面にデータが表示されます。

No.	Rec	時間	OBJID	データ型	データ	単位/他	実行	実行	実行
1	1	14:50: 1 (47c2ae09)	a1001	A.f	54.774117	0	-	-	-
2	2	14:50: 1 (47c2ae05)	a1001	A.f	54.774117	0	-	-	-
3	3	14:50: 1 (47c2ae01)	a1001	A.f	54.774117	0	-	-	-
4	4	14:50: 1 (47c2ae0d)	a1001	A.f	54.774117	0	-	-	-
5	5	14:51: 1 (47c2ae78)	a1001	A.f	54.774117	0	-	-	-
6	6	14:51: 1 (47c2ae76)	a1001	A.f	54.774117	0	-	-	-
7	7	14:56: 1 (47c2af11)	a1001	A.f	54.774117	0	-	-	-
8	8	14:57: 1 (47c2af2d)	a1001	A.f	54.774117	0	-	-	-
9	9	14:58: 1 (47c2af09)	a1001	A.f	54.774117	0	-	-	-
10	10	14:58: 1 (47c2af05)	a1001	A.f	54.774117	0	-	-	-

図 21.4.3 読み込み成功時の画面表示

ファイル(月単位)の存在しない日時の編集をする場合には、touch コマンド等を用いて、ファイル(名)を作ってからレコードを追加するなどの作業を続けてください。ファイルが存在しない場合は、以下のようなメッセージが表示されます。



図 21.4.4 ファイルが存在しないときのメッセージ表示

### 読み込データ数

読み込んだデータのレコード数を表示します。

現在1日に読み込める最大レコード数は、1,000,000 迄です。従って、この行数を超える場合には、レコードファイル仕様を公開していますので、仕様にもとづき別途ユーザプログラムを作成して処理して下さい。

### 実行メッセージ

READ ボタン、OUTPUT ボタンで機能を実行した時の状態メッセージが表示されます。

ファイル上書更新ボタン

画面上で編集中的数据を記録ファイルに上書きします。

正常に書込みが実施されると、以下のメッセージが表示されます。

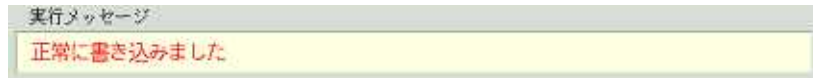


図 21.4.5 記録ファイルへ上書き成功時のメッセージ表示

また、上書きされるファイルは、障害発生時の復旧の為にバックアップされます。バックアップファイル名は、下記フォーマットの通りです。

```
sys_itvYYMM.YYMMDDhhmmss.log

YY :   年 (year)
MM :   月 (month)
DD :   日 (day)
hh :   時 (hour)
mm :   分 (minute)
ss :   秒 (sec)
```

ファイルが生成されるディレクトリは、\$KARACRIX/usr/log 配下です。

なお、このファイルが不要になった場合には、「ディレクトリ管理」画面のファイル削除機能を用いるなどして、手動で削除する必要があります。

No

表示行番号です。(注:「 読込データ数」の注釈参照)

Rec

記録ファイルレコードの行番号です。

月毎に生成される記録ファイルの先頭からのオフセット位置を示します。

レコード追加時の番号は、0を示しています。

時間

データの記録時刻です。OS 時間 (UNIX タイム) が括弧内に 16 進数で表示されます。

OBJID

ポイントの OBJID 名です。

ポイントの識別子は、OBJID のみです。タグ名の様な変更可能なものは設定できない仕様になっています。

## 21.4 計測記録データ編集

### データ型

データの型を表示します。

D.i : ON/OFF 型のデジタルタイプ (Digital.integer)

A.i : 積算型の整数値タイプ (Analog.integer)

A.f : アナログ型の実数値タイプ (Analog.float)

### データ

計測された記録データです。

D.i 型では、10進整数値と16進数値(0x??)の2つが表示されます。

A.i 型では、10進整数値で表示されます。

A.f 型では、小数点以下6桁の実数値で表示されます。

### 単位/他

アナログタイプの場合、その単位コード等が表示されます。

### ALM

ポイントが警報状態であることを示します。

警報状態とは、KCX ライブラリの `kcxobj_alm_stat_ird` 関数で取得できるデータを示します。

設定すると警報状態を示す“on”が表示されます。解除すると“-”が表示されます。

### EDT

編集(変更)のマークを記録に記録したい時に用います。設定すると、E 表示されます。新規にレコードデータを追加した場合には、+E 表示され、これは編集(変更)できません。

4	0	14:52:31 (47c8ef1f)	ai001	A.f	79.000000	0	on	+E	-
5	4	14:53: 1 (47c8ef3d)	ai001	A.f	54.774117	0	-	-	X
7	6	14:55: 1 (47c8ef05)	ai001	A.f	56.740002	0	-	E	-

図 21.4.6 レコードの編集マーク表示

### DEL

実際に記録されたデータを削除することは仕様上できません。但し、データの存在を無効とするマークを設定することはできます。このマークされたデータは、アプリケーションからは削除されたデータのように無いものとして扱われます。設定すると、“X”マークが表示されます。

## 編集ボタン

レコードを追加登録する場合には、“INS”表示にして追加する行のところでクリックすると以下のダイアログ画面が表示されますので、“設定記録時間”に追加する時間と、追加するポイントのオブジェクト ID を指定して“ENT”ボタンを押して下さい。

図 21.4.7 レコード追加時の設定ダイアログ表示

レコードが追加登録された直後は、図のように Rec、データがそれぞれ、“0”、“0.000000”の表示になっています。ここで、データの値を編集することができます。

No.	Rec	時間	OBJID	データ型	データ	単位/他	ALM	EDT	DEL
1	1	14:50: 1 (47c8ee09)	ai001	A.f	54.774117	0	-	-	-
2	2	14:51: 1 (47c8eec5)	ai001	A.f	54.774117	0	-	-	-
3	3	14:52: 1 (47c8ef01)	ai001	A.f	54.774117	0	-	-	-
4	0	14:52:31 (47c8ef1f)	ai001	A.f	0.000000	0	-	+S	-
5	4	14:53: 1 (47c8ef3e)	ai001	A.f	54.774117	0	-	-	-
6	5	14:54: 1 (47c8ef78)	ai001	A.f	54.774117	0	-	-	-
7	6	14:55: 1 (47c8efb5)	ai001	A.f	54.774117	0	-	-	-
8	7	14:56: 1 (47c8eff1)	ai001	A.f	54.774117	0	-	-	-
9	8	14:57: 1 (47c8ff2d)	ai001	A.f	54.774117	0	-	-	-
10	8	14:58: 1 (47c8ff68)	ai001	A.f	54.774117	0	-	-	-

図 21.4.8 レコード追加直後のレコードの値

## 21.5 ファイル一覧 &amp; 削除

「ファイル一覧 & 削除」画面では、KaracrixBuilder のシステムでよく使用する各種管理ファイルの一覧情報を表示します。システム運用中のファイルの使用量などを確認することができます。また、一部記録ファイルなどの削除を行なうこともできます。

「システム環境設定メニュー」画面で、「ファイル一覧 & 削除」ボタンを押すと「ファイル一覧 & 削除」画面が表示されます。一覧は、本画面表示時点の下記ディレクトリの検索順に行われます。なお、spool 以外のディレクトリは、ファイルが存在しない場合は表示されません。また、obj、vdr ディレクトリは作業領域であるため表示されません。

log、spool、tre、etc、tmp、u1og1、u1og2、u1ata1、u1ata2、u1tbl、  
env、sdx、prg、pra、pfm、pfx、mon、mox、bin、img、(obj、vdr)

No.	ファイル名	サイズ/合計	モード/権限(a)	書込(m)/属性(c)	Del
1	/usr/log/sys_alm000.log	2,580 2,560	-rw-rw-r-- 08/09/04 19:23	08/09/05 23:23 08/09/06 23:23	+
2	/usr/log/sys_ope000.log	11,008 13,508	-rw-rw-r-- 08/09/04 19:13	08/09/05 23:23 08/09/06 23:23	+
3	/usr/log/sys_itu000.log	17,840 31,408	-rw-rw-r-- 08/09/04 21:22	08/09/06 23:28 08/09/06 23:28	+
4	/usr/log/sys_alm000.log	2,560 33,968	-rw-rw-r-- 08/08/29 18:24	08/08/29 19:00 08/08/29 19:00	+
5	/usr/log/sys_ope000.log	2,176 36,144	-rw-rw-r-- 08/08/29 10:35	08/08/29 15:48 08/08/29 15:48	+
6	/usr/spool/3	4,096 40,240	dwxr--r-- 08/09/05 23:28	04/03/10 15:04 08/08/08 21:06	-
7	/usr/spool/0	4,096 64,336	dwxr--r-- 08/09/05 23:28	04/03/10 15:04 08/08/08 21:06	-
8	/usr/spool/1	4,096 93,432	dwxr--r-- 08/09/05 23:28	08/06/03 14:49 08/06/06 21:06	-
9	/usr/spool/2	4,096 52,432	dwxr--r-- 08/09/05 23:28	04/03/10 15:04 08/06/06 21:06	-
10	/usr/ustbl/wcxiten,objgen,kcxcomp.tbl	8,207 60,735	-rw-r--r-- 08/09/04 20:42	08/08/29 10:35 08/08/29 10:35	-
11	/usr/env/font.env	1,853 62,688	-rw-r--r-- 08/09/05 23:28	08/08/29 10:35 08/08/29 10:35	-
12	/usr/env/color.env	13,302 75,990	-rw-r--r-- 08/09/05 23:28	08/08/29 10:35 08/08/29 10:35	-
13	/usr/env/color.chg	345 76,235	-rw-r--r-- 08/09/05 23:28	08/08/29 10:35 08/08/29 10:35	-
14	/usr/env/sysconf.env	3,094 73,319	-rw-r--r-- 08/09/05 23:28	08/08/29 10:35 08/08/29 10:35	-

図 21.5.1 ファイル一覧 &amp; 削除画面

「ファイル一覧 & 削除」画面の項目を説明します。

No.

ファイルの一覧番号です。

ファイル名

KaracrixBuilder のルート<sup>\*1</sup>からのファイルパス名を表示します。

\*1 KaracrixBuilder をインストールした先頭のディレクトリをルートとしています。本書では、\$KARACRIX で表現しています。

## サイズ / 合計

上段には、ファイルのサイズがバイト単位で表示されます。下段には、一覧の先頭からのファイルのサイズを加算した合計が表示されます。

## モード / 読込(a)

上段には、ファイルのアクセス許可モードが表示されます。

下段には、ファイルが最後に参照された時刻を表示します。

許可モードの意味を以下に示します。

d----- : ディレクトリを表す  
-r----- : owner ユーザの読取可を表す  
--w----- : owner ユーザの書込可を表す  
---x----- : owner ユーザの実行可を表す  
----rwx--- : group ユーザの読取可、書込可、実行可を表す  
-----rwx : other ユーザの読取可、書込可、実行可を表す

## 書込(m) / 属性(c)

上段には、ファイルが最後に書き込まれた時刻を表示します。下段には、ファイルの属性が変更された時刻を表示します。

## Del

ファイルの削除許可属性を下記の文字記号で表示します。

\* : 削除できます

- : 削除できません

削除可能なファイルは、以下に示すファイルです。これら以外は、システムに必須な設定ファイルであるため削除できません。(削除を実行すると復旧不可能となりますので十分に注意してください。)

1. 計測記録データ 2. 操作履歴データ、 3. 警報履歴データ

## 編集ボタン

ファイルの削除編集のみ使用できます。







